

知識の社会史

知と情報はいかにして商品化したか

私たちはいま情報社会

という新しい現実を直面

しつつある。コンピュータ

とインターネットを技

術的基盤とする情報社会

情報社会の今日、歴史家は

において、モノやエネ

ルギーとともに情報や知

識が財つくり商品として

重要な役割を果たすこと

が多くの論者によって指

摘されている。しかしル

ネサンス期以降の文化史

を探索するピーター・バ

ークにとっては、「情報

の商品化は資本主義と同

じくらしい行為」なの

であって、むしろ、情報

や知識に対するこれまでの

学問的な取り組みの空

ということになる。

知識は伝統的には社会を

構成する要素の一つとして

扱われてきたのであるが、

複製の時代へと推移するこ

とは、まさに「知識におけ

て制作され伝達されていた

時代から印刷術による大量

生産の時代へと推移するこ

われば、増大する情報量を

ける情報や知識と知識人を

めぐる話題が次々と提供さ

れて興味が尽きない。まさ

に著者の述べるように、情

報社会の今日こそ情報や知

識について再考しなければ

ならないのであるが、問題

はどこで描かれた時代と異

なっているのか、国家・教会権

を自由に動き回る時代に私

近代初頭における知識社会の構造変動を歴史的に描く

合 庭 悖

々の収集、保管、および検査の方法や情報伝達網を委化させた」と語ったのは歴史家のエリザベス・アイゼンシュテインであるが（『印刷革命』）、社会に関わる記録・文書が手書きによって制作され伝達されていた時代から印刷術による大量生産の時代へと推移するころは、まさに「知識におけるコントロールする手法も革

代と植民地獲得競争、宗教改革、反動宗教改革、科学革命、啓蒙思想、絶対王政の衰退など歴史的大変革が次々と到来し、関係する著作・文書・図画が印刷によって大量に配布された。そこでは、情報や知識を生産する知識人の在り方も変れば、増大する情報量をける情報や知識と知識人をめぐる話題が次々と提供されて興味が尽きない。まさに著者の述べるように、情報社会の今日こそ情報や知識について再考しなければならないのであるが、問題はどこで描かれた時代と異

る社会的要素」に起きた革命であった。グーテンベルク以降、学問的著作物のみならず地図や行政文書までも印刷物として配布される時代が到来することになる

チアのガラス技術をめぐる産業スパイまで登場することになる。私たちはすでに印刷・出版・書物に関わる多くの文献を手にしており、本書は著者自身も冒頭で触れるように「二次文献をもとに書かれ」たのであるが、印刷の登場以降の近代初頭における情報や知識と知識人をめぐる話題が次々と提供されて興味

「知識における社会的要素」に起きた革命であった。グーテンベルク以降、学問的著作物のみならず地図や行政文書までも印刷物として配布される時代が到来することになる

つまずき、物流を経由する情報移動と、電子的なネットワークが時間・空間を圧縮して情報伝送する事態との相違である。著者の意図する知識の社会史は、現代の情報社会に向かうときどのような構図になるのだろうか。（井山弘幸・城戸淳訳）（あいは・あつし氏∥国際日本文化研究センター教授・情報社会論専攻）

★ピーター・パーク（一九三七～）は現在、ケンブリッジ大学エマヌエル・カレッジ教授・ヨーロッパ文化史専攻。オクスフォード大学で学ぶ。著書に「イタリア・ルネサンスの文化と社会」「ヨーロッパ民衆文化」「社会学と歴史学」「ヴィーコ入門」「フランス歴史学革命」など。



46判・408頁・3570円
新曜社
4-7885-0910-5

知識の社会史

グーテンベルクから
百科全書まで

46判・408頁・3570円
新曜社
4-7885-0910-5

新されるし、国家・教会権力と知識人あるいは出版・印刷業との相克も生じてく

また、ここにはヴェネ

たち

は